

5/14 初回

# 沖縄進む自衛隊増強 変遷51年

沖縄は15日、日本への復帰から51年を迎える。国内の米軍専用施設の割が集中するいびつな状況に加え、近年では中国に対抗するため軍事力を高める「南西シフト」で自衛隊の増強が急速に進

む。復帰半世紀を過ぎてなお、これまでとは異なる負担を迫られている。

▼27面=溶け込む自衛隊

沖縄を含む南西諸島は長年、防衛の「空白地帯」とされてきた。陸上自衛隊は与那国島（2016年）、奄美大島（19年）、石垣島（今年3月）に駐屯地を開設。中国と向き合う最前線の島々で防衛拠点の構築を急ぐ。

1972年の復帰とともに駐屯地ができる沖縄では、80年代の自衛官数は6千人台だったが、南

西シフトが進む2016年に7千人を超え、20年

年に8200人に達した。

沖縄の米軍専用施設は計約1万8千ヶ所。国土面積の約0・6%に全国の米軍専用施設の70・3%

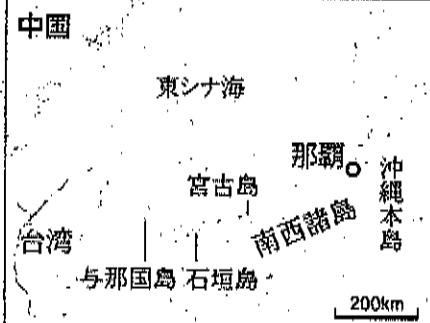
が集中し、名護市辺野古では埋め立て工事も進む。それに加え、自衛隊基地の面積は昨年3月時点まで計約783ヶ所で、復帰時の4・7倍に増えた。

太平洋戦争中の沖縄戦で、県民の4人に1人が「軍」への抵抗が強く、自衛隊が初めて移駐した

際には大規模な抗議集会が開かれた。最近の世論調査からは自衛隊への県民感情が上向いたことが見て取れる。

過疎化対策で前町長が決まり、関係者による自衛隊員は人口の2割近くになるとみられる。

「有事の際に標的になるのでは」。当初は賛成していた住民の間でも不安が高まっている。



中国

東シナ海

宮古島

那覇

沖縄本島

南西諸島

台湾

与那国島 石垣島

200km

